

学校運営協議会議事録

校名	大阪府立光陽支援学校
校長名	藤野 洋子

開催日時	平成31年2月26日(火) 10:00 ~ 12:00
開催場所	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室
出席者(委員)	小田 浩伸(会長) 平賀 健太郎(委員) 当日欠席 宮本 正路(委員) 鎌倉 義雄(委員) 田中 一郎(委員) 田中 正子(委員)
出席者(学校)	藤野 洋子(校長) 芝 浩文(事務長) 萬井 俊治(教頭) 林 佳巨(教頭) 吉川 勝敏(首席) 酒井 友行(首席) 石見 友一(首席) 岡本 一恵(首席) 古沢 宏明(指導教諭) 辻 美穂(小学部主事) 増田 健作(中学部主事) 菊池 亮輔(高等部主事)
傍聴者	1名(本校保護者)
協議資料	「平成30年度学校経営計画評価」「平成31年度学校経営計画案」 「学校教育自己診断」分析資料 「第2回授業アンケート」
備考	

議題等(次第順)

- (1) 校長挨拶
- (2) 平成30年度「学校経営計画」達成状況について
- (3) 「学校教育自己診断」分析状況について
- (4) 「第2回授業アンケート」について
- (5) 平成31年度「学校経営計画」(案)について
- (6) 意見交換
- (7) 教頭挨拶

協議内容・承認事項等(校長より内容説明)

＜平成30年度「学校経営計画」の達成状況について＞

* 「めざす学校像」実現に向け、資料に沿って「本年度の取組内容」の達成状況について、具体的に説明を行った。

(1)【基礎】安全安心力の向上

① 人権尊重の教育

- ・ 「いじめ対策委員会」の設置と「学校いじめ防止基本方針」の策定。内容の周知・再確認のため印刷配付した。
- ・ 「こども人権委員会」の立ち上げ(9月)と「こようこどもサポート室」の設置。
- ・ 職員会議・部会・学年会等を活用して、毎学期「人権尊重のこぼれ・行動」の大切さについて確認を行った。特に、児童生徒に使用する「こぼれ・行動」と同僚間で使用する「こぼれ・行動」の質を高める。

② 心身の健康を守る教育の推進

- ・ ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告と分析活用及び今後の対応の共有化は、100%実施。
- ・ 国事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」の重点校として①医師の泊行事付添い(中3修学旅行)実施済、②教員・看護師研修として「気管切開について」の公開研修会と「呼吸介助・人工呼吸器」等の研修6回実施済。
- ・ 学校医による泊行事の付添いは、生徒・保護者・教職員の安全安心につながり、成果は大きい。
- ・ 「人工呼吸器を使用する児童生徒の対応」について校内ガイドラインを作成運用中(6月)。

③ 危機管理体制の強化

- ・ 「非常持ち出しバック」の物品交換は学期ごとに実施済。
- ・ 一斉メール配信システムを「光陽支援安心メール」へ移行。
- ・ 「学校における危機管理」へ俯瞰的に対応するため「防災PJ」から「危機管理委員会」へ組織変更を行う。
- ・ 「危機の分類」に応じて、「アレルギーガイドライン」「情報管理規定」を作成した。防災用ヘルメット174個購入済。

(2)【実践】授業実践力の向上

① 教育課程の再編成

- ・ 新学習指導要領の知的障がい等の指導内容を教科ごとに内容の系統性がわかるようにして表にまとめた。
- ・ 指導内容表とチェック表を使用し、各学部の「知的代替の課程」「自立活動を主とする課程」での指導内容の取扱い状況を確認した。
- ・ キャリア教育の全体研修を2月に実施し、知識を共有した。

②質の高い授業実践

- ・「主体的な学びを引き出す」という研究テーマに沿った公開研修会を実施済(7月)。授業参観週間・交流会共に、テーマに関連付けて実施。交流会は、昨年度の反省を活かして、授業者と参観者が深く交流できる形態を追求した。1月の授業実践交流会は、質の高い実践4本で学び合えた。
- ・「ゆめ水族園」では、魚作り・絵・作文等で事前事後指導を実施。児童生徒の経験と学びが深まった。また、教員の授業におけるICT活用の工夫・発想の転換にも効果があった。
- ・「ポッチャ」の取り組みは、授業・昼休み・放課後と各々で充実し、成果が上がっている。

③自立活動の充実

- ・【病弱】VRの実践やテレビ会議システム・ICT活用による原籍校とのつなぎ支援は定期的に展開でき、他府県(岐阜県・愛知県・横浜市・東京都)からも視察依頼を受け、実践を紹介した。
- ・本校でもICT機器の活用度は高く、1月にICT全体研修会で各学部の実践を共有し、全教職員で学び合えた。
- ・スパイダー活用実践では、安全対策マニュアルに昨年度の事例集を加え、配付。「スパイダー連絡会」の教員等が定期的にスパイダー活用の自立活動でアドバイスをを行った。

(3)【組織】組織力の向上

①教職員の専門性向上

- ・「全校研修」は外部講師に本校の実態を細かく伝え、校内のニーズに合った研修を実施することができた。
- ・10年研修・インターメディアイト研修・初任者研修で作成する実践レポートについて、作成段階で部主事・首席・指導教諭で回覧し、助言を受ける機会を設けた。また、授業改善レポートは、指導案作成段階から指導教諭が助言を行いながら授業に臨むようにできた。初任者研修やインターメディアイト研修では、目標を明確にすることで、3Sを押さえた授業デザインについて確認しながら進めることができた。

②引継システムの推進

- ・産業医による「断捨離」評価は、9月と1月に実施済。1月の職員室巡回では整理整頓が進んでいるとの評価を得た。
- ・学習指導案・略案・教材の「アーカイブ化」による引継ぎシステムの推進は、教務部・研究部・自立活動部等各分掌、各学部でできることからデータ整理を実践している。

③教職員働き方改革の推進

- ・週1回、毎週水曜日のノー残業デー(19時)は継続実施できた。さらに12月10日より①「仕事の時間を区切る」として、毎日19時学校施錠を実施できている。教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、さらに改善策を協議していく。

(4)【発信】発信力の向上

①交流および共同学習の充実

- ・「学校間交流」は、5校19回実施。5校で事前学習の出前授業を実施。交流校アンケート肯定的評価ほぼ100%。
内訳:小学部2校8回。中学部1校3回。高等部2校8回。
- ・「居住地校交流」は、17校36回実施。9校で事前学習の出前授業を実施。(H30は、14校32回)
内訳:小学部11校24回。中学部6校12回。
- ・出前授業により当日の交流が充実し、さらに交流後の振り返りにより「相互の学びや気づき」を深めることができた。

②地域に開かれた学校作り

- ・「なんでも相談会」「こうやん座談会」は、定期的に実施済。
- ・「ポッチャ推進」の取り組みでは、「ポッチャ甲子園」(8月東京)「フェニックス杯」(11月長居)等の大会に参加し、校外へ成果を発信できた。また、2020オリンピック・パラリンピックのフラッグツアー大阪にも参加し、チーム光陽のキャプテンが壇上でフラッグを振るという体験もできた。12月には、旭区が事務局の「和んで座談会」にてポッチャ交流を担当した。
- ・「ゆめ水族園」では、地域学校園から6校園一般来校者合わせて224名の参加があり、地域とのつながりが実感できた取り組みとなった。本校を合わせると合計436名の参加実績。

③実践の積極的発信

- ・実践の積極的発信については、継続して取り組めた。また、東京の支援学校5校の公開研究会へ7名が参加し、専門性向上と共に、発信の意義と「発信スキル」を学び共有した。
- ・ホームページの定期的な更新は、各教職員が責任を持って行事等の実施毎に更新することができた。

◀「第2回授業アンケート」について▶

- ・6月と12月の授業参観時にアンケートを実施。保護者の提出状況は1学期59%、2学期67%であった。各学部とも「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた数字は1学期より2学期は上昇。
- ・自学部でのアンケート結果だけでなく、他学部の内容も含めて、全体を見て共有し実行していく。
- ・保護者の自由記述も授業改善のヒントにしながら、本校では授業改善のために教員に周知し活用している。厳しい意見もあるが、個別に対応し、内容の確認と改善の方向性を示している。

《「学校教育自己診断アンケート」分析結果について》

・【分析・検討状況】

1. 教員結果で、肯定的な回答の数値が低い項目について、以下の3点を重点に分析・検討する。
 - (1) 【項目2】 教職員間と児童生徒に使用する「言葉・行動」の質と人権尊重の教育
【項目3】 児童生徒の指導でのカウンセリングマインドを取り入れた丁寧な指導
 - (2) 【項目16】 仕事を効率的に実施し、引継もスムーズに行うための整理整頓
【項目17】 働き方改革に伴う仕事のスリム化等
 - (3) 【項目27】 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の共通理解と活用
2. 分析・検討の結果、具体的な改善案
 - (1) 人権尊重の教育推進
 - ① 児童生徒の名前の呼び方は、愛称等ではなく、「～さん」と呼ぶ。職員間は、「～先生」と呼び合う。
 - ② 人権尊重のことば・行動について、学年会・クラス会で毎月振り返る。また、お互いを尊重した意見交換を行う。
 - ③ 具体的な事例での人権研修の実施。
 - (2) 働き方改革に伴う仕事のスリム化
 - ① パソコン内のスクールフォルダの整理。(ICT教育部・全校教務・管理職が中心に実施)
 - ② 個別の指導計画と通知票を一体化する等の検討。(カリキュラムPJ・教務部が中心に検討)
 - ③ 校内研修について、悉皆研修と任意研修に分けて研修一覧表を作成。(研究PJ・研究部が中心に作成)
 - ④ 会議の仕方を変える。(会議の中身、資料の作り方等、会議スキルの向上)
 - ⑤ 18時以降の電話についてメッセージ対応に切り替える。(事務で設置予定)
 - ⑥ 業務量の平準化・仕事の分担等を考えた校内人事(管理職が中心に)
 - (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の共通理解と活用
 - ① アンケート結果を受けて、「個別の指導計画作成についての留意点」を作成し、共有。
 - ② 活用が進むようなシステムの改善や様式の検討を実施。

《平成31年度「学校経営計画案」について》

・「めざす学校像」「中期的目標」について説明し、学校運営協議会委員の方に承認していただいた。

協議内容・承認事項等(委員からの意見の概要)

《委員より》

- ・危機管理体制の強化についての評価が△であるが、○評価でもよいのではないかと。
→ 斉メール配信システムの移行やヘルメットの整備等達成したことも多いが、「大災害初期対応マニュアル」が作成中のため、今年度は△としたい。
- ・地域の学校として、今年度は積極的に光陽支援と交流ができた。今年は「お互いを知る」交流ができたので、次年度は「ともに○○する」等して、理解・学びを深めていきたい。
- ・小中学校では「自立活動」の取組についてニーズが高い。更にセンター的機能を発揮してほしい。
- ・授業アンケートの自由記述が他校と比べて大変多く、また内容も高評価が多い。保護者の方は、「これからも先生方に期待したい」という思いでたくさん記入されていると思うので、今後も保護者の思いを受け止めて共有してほしい。
- ・安心安全を第一に学校運営をしているのがよくわかる。今後も子どもの気持ちをしっかり汲みとる方法や手段を工夫して取り組んでほしい。
- ・「少しの課題」にもしっかり着目し、受け止めて、教育活動を展開していただいていると思う。
- ・ポッチャの交流も含めて、地域の学校としてのあり方を共に考えていきたい。
- ・働き方改革については、難しい部分もあるが今後も取組を進めてほしい。”やらされている仕事”とを感じるか、自ら”やりがいのある仕事”とを感じるかもポイント。
- ・子どもたちにとっても教員の健康は大切なので、腰痛等は”予防”を大事に考えてほしい。
- ・報告・連絡・相談の徹底は大切。細やかに子どもたちを見て、事故等を防ぐことができればよいと思う。
- ・ヒヤリハットやインシデント報告の共有の仕方について教えてほしい。
→ ヒヤリハット・インシデント・アクシデント報告は職員朝礼や職員会議で共有している。長期間のデータを分析し、特定の時期に多発する類似のインシデントの周知により、今後の発生を予防している。
- ・斉メール配信システムの現在の加入状況を教えていただきたい。
→ 加入率は、保護者・教職員ともにほぼ100%。災害時だけでなく、通学バスが10分以上遅れた時の連絡やインフルエンザ罹患発生時のお知らせでも活用している。災害時にスムーズな活用ができるように、回答機能や集約の仕方も今後、訓練を行っていきたい。
- ・欠席の委員から書面で、病弱教育における「ICT機器を利用した支援の更なる充実」「高校生への教育支援の工夫」について意見をいただいた。

次回の会議日程

日時	平成31年6月26日(水) 10:00 ~ 12:00
会場	大阪府立光陽支援学校 本館1階 図書室